



法人名 NPO法人Silent Voice(サイレントボイス)

住所 〒542-0061 大阪府大阪市中央区安堂寺町1-3-12 大阪谷町ビル4F

電話/FAX 06-4302-5799 / FAX 06-4302-5798

沿革 / 受賞歴  
2014年2月 | 任意団体Silent Voice 発足  
2014年11月 | 大阪NPOセンター主催ソーシャルビジネスプランコンペ近畿グランプリ  
2017年1月27日 | 大阪市よりNPO法人の認証を受け、設立  
2018年7月 | 日本青年会議所主催人間力大賞にてグランプリ・内閣総理大臣奨励賞受賞  
2019年12月 | 日本財団ソーシャルイノベーションアワード最優秀賞  
2020年12月 | 第二十回大阪弁護士会人権賞

役員  
代表理事 | 尾中 友哉  
理事 | 井戸上 勝一  
理事 | 高橋 縁  
監事 | 前田 浩

スタッフ数 17名(正社員・契約社員・アルバイト含む)



伝わらないほど  
あふれだすもの。



# Silent Voice

発行:2022/08



# 伝わらないほど あふれだすもの。

伝えたいことが伝わらない。

その瞬間にあふれだすものは  
いったいなんなのだろう。

どうしてわかってくれないの。  
そんな悲しさや悔しさかもしれない。

もう期待するのはやめよう。  
そんな怒りや無関心かもしれない。

でもやっぱり伝えたい。  
そんな想いや願いかもしれない。

それらはすべて良くも悪くも  
はかりしれない熱量を秘めている。

このエネルギーをわかりあうための  
前向きな原動力へ変えるために。

わたしたちSilent Voiceは、  
デフと聴者が生み出す  
「伝わらないからこそわかりあえる」新しいアイデアを届けていく。

さまざまなちがいがあつた人たちがあきらめずに  
「伝わらないほど あふれだすもの」を力強く伝えあいつづける。

もっとにぎやかな社会をめざして。

VISION  
デフと聴者の  
共にできるを、ふやす。

MISSION  
”学ぶ”と”働く”体験の刷新

CONCEPT

## 01 共にできるを、ふやす

デフと聴者は、もっと良い関わり合いができる。

サイレントボイスは、教育部門と就労部門の活動を通じて

デフと聴者の関わりをアップデートし

「共にできる」をふやし続けるNPOです。

## 02 伝えるを、ふやす

検索、音声の文字化、ビデオチャットなど

新しいツールによって伝える方法は豊かさを増している。

“障害者”だからかわいそう、“健常者”だから助けよう

この思い込みは環境次第で解除することができる。

ツール活用と意識を変えることで

デフと聴者のコミュニケーションはもっと伝わりあえる。

わたしたち自身から「伝える」発見が生まれるように、

デフと聴者を同数にして共に働いています。

## 03 社会へ、ふやす

サイレントボイスの原点は、

ろう者の両親に育てられた代表尾中の幼少期にあります。

「夢を諦め働いていた父も環境さえ違えば、仕事を楽しむことができ、

その企業や国にとっても良い？」という社会への疑問です。

諦めないでいい社会、伝わりあうことができる社会、

その実現のための「ソリューション事業やプロジェクト」を、

デフと聴者が共にふやし続けていくことを宣言します。

## 「デフ」ってなに？

社内外で「健常者」「聴覚障害者」という言葉を使用した場合に、自然と優劣のような印象が生じることに違和感を持ち、使用することを控えています。また当事者団体において、**ろう者** (Deaf) と **難聴者** (HoH: Hard of Hearing) とは、言語や文化的背景などから区別されています。

サイレントボイスでは、**ろう者・難聴者**を区別して表記します。また、併記が必要な場合は、「**ろう者・難聴者**」「**ろう児・難聴児**」、あるいは聞こえない聞こえにくい人の総称として「**デフ**」という表記をしております。

# デフアカデミー

ろう児・難聴児がいるご家庭が対象の総合学習塾

ろう児・難聴児に特化した大阪市指定の放課後等デイサービスとして2017年設立。聴覚支援学校や地域学校(難聴学級)の小・中・高校生を対象に、コミュニケーションをサポートしながら遊びを取り入れた集団授業やイベントを実施し、居場所と成長の場の提供を行っています。



# EPISODE

小学2年生女子(保護者)

自分で考えたり作ったり  
成長が見られます



地域の小学校に通っているので難聴のお友達と過ごせる大事な場所になっています。デフアカデミーでは勉強だけではなくいろいろな体験ができるので自分で考えたり準備したり作ったり成長が見られます。

中学一年生男子(保護者)

将来を考えたり相談したり  
心の安定も見られた



仲の良い友達が増えて喜んでいました。指導員の方と色々話して自分の将来のことを考えたり相談したりしていたようで心の安定も見られたように思う。

PICK UP

「僕の場所じゃない」から  
“まわりに頼ること”を学ぶまで。



2021年度は頂いたご寄付を元に、大阪府内の支援環境の乏しい地域への出張教室を行いました。そこで出会った「くん」。お母さまは「学校に友達が一人もいない」「どこにも行きたがらない」と語っておられました。初回開催では飛び交う手話に圧倒され「ここは僕の場所じゃ

ない」とくんは感じてしまったそうです。スタッフから「丁寧に関係を築き、まずはくんの安心できる場所を作りたい」と提案し、最初に取り組んだのはくんの好きな“恐竜”を題材に成功体験をたくさん積んでもらうこと。スタッフに怒りや不安の感情を露わにすることもありました。彼の話をもじり受け止め、話し方や距離、伝わらない時の工夫など丁寧に伝えることを積み重ねました。数ヶ月後「教室に行く準備を自分でするようになった」とお母さまから報告があった同時期、教室でも変化が見られました。全て受け身だったくんが、自らやりたいことを話し始め、計画、実行するようになってきたのです。出張教室の最終日、お母さまが「以前より甘えるようになったんです」と伝えてくれました。安心した人間関係の中で、くんが一步一步着実に成長している姿を、私たちが輝かしく思っています。

POINT 1

“聞こえない”に隠された  
奥深き原因に目を向ける



”できないこと・苦手なこと”その原因は本当に“聞こえない”ことでしょうか? やりたいことを実現するために、その奥の原因に目を向け、様々な視点が持てる子どもたち一人ひとりと向き合います。

POINT 2

伝える、わかりあうまで  
諦めないコミュニケーション



私たちは子どもたちの”伝えたいこと”が”相手に伝わる”まで、とにかく待ちます。方法が分からない場合は、一緒に考えます。コミュニケーション方法はなんでもいい、あきらめなくていい環境を提供します。

POINT 3

プロセスを学び  
問題解決思考を育てる



ろう児・難聴児は、結果や目的だけを伝えられることが多く、プロセスを理解しにくいと言われています。プロセスを考えることを習慣づける学習環境は、“問題解決思考”を育てます。

支援実績  
(2021年度時点)

年間のべ参加者数

3283名

登録児童数

130名

ソーシャルセクターで働く人からの声

「確かな学力」と「環境整備」

聞こえない人(deaf)は、自らに誇りと自信を身にまとうことで、聾者(Deaf)になる。聾者が誇りを持って生きるためには、「確かな学力」と「環境整備」が必要。オンラインも積極的に活用し、熱意あふれるスタッフが、手話で学べる場を提供していく。そんなSilent Voiceから、誇りある聾者が育っていくことを期待します。



金澤貴之氏  
群馬大学 共同教育学部 教授

# サークルオー

ろう児・難聴児のオンライン対話学習コミュニティ

全国の小・中・高校生のろう児・難聴児へ向けたオンライン対話学習サービスとして2020年に本格始動。ろう児・難聴児に合わせたコミュニケーションができる先生のもと、ことば学習や教科学習、興味関心を広げる集団学習を通して、小さな成功体験や新しい世界を拓ききっかけを提供しています。



# EPISODE



東京都・高校1年生(保護者)

## サークルオーにもっと早く出会いたかったです

「勉強わからなくなってきた。どうしよう」そんな子どもの訴えに胸を痛めていました。コロナ禍でも家庭にいながら手話で丁寧に英語を教えてくださいました。娘の表情が明るくなりました。心の支えがあるとこんなにも変わるのかと驚きました。



広島県・小学生担当の先生

## 子どもの夢の実現をサポートできる場所

授業を通して、子どもの成長を感じます。親子のコミュニケーションが取りやすくなったことや、できた時の子どもの輝くような表情が何より嬉しいです。サークルオーは、子どもはもちろん、私の夢も実現できる場所だと感じています。

## PICK UP ろう児・難聴児の「世界にたった1人」の孤独をなくす。



聴覚障害のある子どもはおよそ 1000 人に 1 人とされています。教室運営が成り立つのは必然的に人口の多い地域の交通至便の地しかありません。人との出会いに限られることで、将来に不安を抱えるご家庭は少なくありません。

コロナをきっかけに広がったサークルオーでは、2021年度は1対1の関係だけでなく、離れた地域の人同士が出会い、集える居場所づくりにチャレンジしました。バスの運転手、弁護士などデフのロールモデルとの交流や、異国文化に触れながらアメリカ手話を学んだり、夏休みには自宅に届くキットで科学実験のワークショップを行ったりと地域や学校では習えない時間を作りました。

画面越しで最初はよそよそしかった子どもたちもいつしか名前を呼び合う関係に。参加する子どもの表情や振る舞いの変化が「出会いの数だけ子どもたちの可能性が広がる」ことを教えてくれました。

インターネットやパソコンは今や当たり前のツールです。「オンラインだからこそ生まれる"出会い"をこれからも作っていきます。

### POINT 1

#### 誰もが学びを選択できる世界を



都心部以外のろう児・難聴児にとって「身近に支援環境がない」という声は日本にまだまだ存在します。いつでもどこでも楽しく勉強ができる。どの地域でも子どもたちの放課後の学びが保障される世界を作ります。

### POINT 2

#### 伝わる、分かるから次の一步を踏み出せる



なぜ学ぶことに抵抗が生まれるのでしょうか？そこには見えないコミュニケーションの壁が存在しています。個々に合わせた関わり方で、ひとりひとりの「分かる体験」を育みます。その小さな成功体験が次の一步につながります。

### POINT 3

#### 新しい出会いが子どもの想像力をかき立てる



多様なデフのロールモデルとの出会い、興味関心のあるテーマとの出会いが、子どもたちの「やってみよう」という前向きなエンジンになります。"知る"ことは、子どもたちが夢や目標を想像できるきっかけになります。

## 支援実績

(2022年6月末時点)

登録生徒数

72名

総授業回数

2650回

登録先生数

29名

利用満足度

95%

参加エリア

18都道府県

ソーシャルセクターで働く人からの声

## 「音のない世界」と僕たちの可能性は無限大

僕たちは「世界に日本があつてよかったといわれる国造り・人創り」をビジョンに、「社会課題をイノベーションで解決する学校」CR-SISを運営しています。これだけ科学技術やインターネットが進んだ現在、「音のない世界」と僕たちが互いに学び合いながら繋がる可能性は無限大です。誰一人取り残さない世界のために。



米倉誠一郎氏  
一橋大学 名誉教授

# デフビズ

デフを雇用されている企業様が対象のコンサルティングサービス

デフ(ろう者/難聴者)と聴者(聞こえる人)が協働する企業へ向けて、研修およびコンサルティングサービスを提供。デフと聴者が半数ずつ働いているSilent Voiceならではの手法で、職場に相互理解と歩み寄りを生み出します。



## SERVICE 1

### 多様なコミュニケーション方法を知る



職場の問題点から、職場環境やメンバーに合った様々な見える化やコミュニケーション手段の整理を行い、働きやすさの土台作りを行います。

## SERVICE 2

### デフと聴者の相互理解の場作り



触れている世界の違い、そこから生じる考え方の違いといった相互の視点を付箋に書き出し、見える化を行いながら問題の背景について理解し合える研修を提供します。

## SERVICE 3

### 歩み寄りのある職場づくりへ実践計画書の作成/実行支援



"健常者"が"障害者"を一方向的に支援するのではなく、お互いに歩み寄りのある持続的な関係性や環境変化をつくるための実践計画書を作成します。

OMRON

オムロン株式会社

ダイバーシティ推進部門



障がい者雇用の現場では一方的支援ではなく相互理解や双方工夫することが必要ということを学び、参加者が主体的に職場改善に取り組める内容でした。

MOTEX  
Secure Productivity

エムオーテックス株式会社

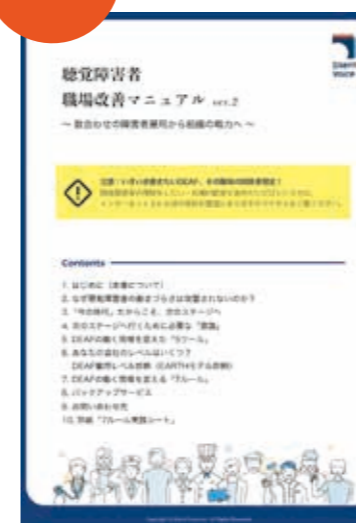
総務本部経営管理部



デフが抱える悩みだけでなく、受入側の悩みも経験や事例を交えたアドバイスが貰えました。

PICK UP

## デフと聴者がともに働く職場改善マニュアル配布中



Silent Voiceでは自社で発見した方法を中心に、デフと聴者が対等に活躍を目指すための方法をノウハウとしてまとめた冊子を配布しています。職場での実践の参考に是非ご活用ください。

[収録内容]

1. なぜ"聴覚障害者"の働きづらは改善されないのか?
2. 「今の時代」だからこそ、次のステージへ
3. 次のステージへ行くために必要な「意識」
4. デフの働く現場を変えた「5ツール」
5. あなたの会社のレベルはいくつ? デフ雇用レベル診断(EARTHモデル診断)
6. デフと働く現場を変える「7ルール」
7. 別紙「7ルール実践シート」

ダウンロードはこちら



## 支援実績

(2022年6月末時点)

導入企業件数

23社

関わったチーム数

約320チーム

マニュアルダウンロード件数

368件

ソーシャルセクターで働く人からの声

## 「なりたい姿」より「ありたい姿」

僕は約10年、働きづらさがある人々に仕事の選択肢を作って参りました。その過程で「得意なことより好きなこと・できることよりやりたいこと」を通じてエネルギーが出ることを知りました。デフビズは、聴覚障がい者や組織の「なりたい姿よりありたい姿」を伴走する取り組みだと思っています。サイレントボイスであれば、自ら選択肢を創る働き方を提案できると信じています。



成澤俊輔氏  
世界一明るい視覚障がい者



「大丈夫、働けます。」ポプラ社

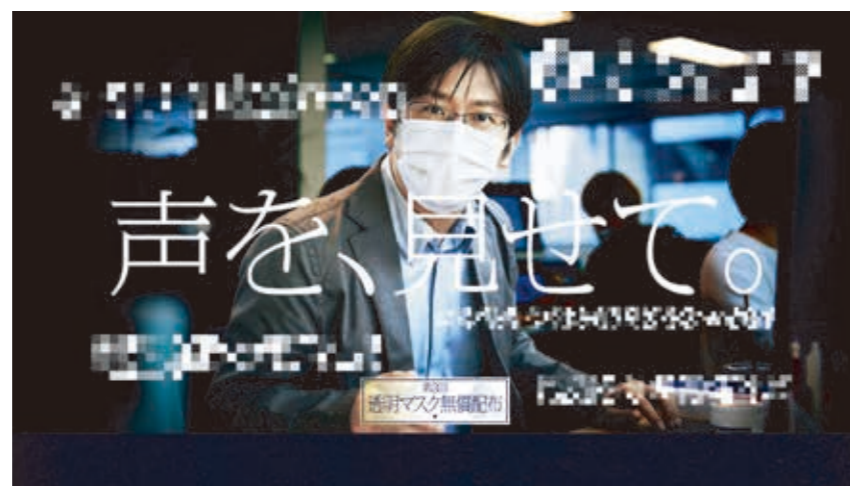
# OTHER PROJECTS

NPO法人Silent Voiceでは、直接的な問題解決のための事業展開のほかに、プロジェクト単位でデフと聴者の交流の場作りを行っています。2020年～2022年は特にコロナ禍において生じた分断に対し、エンターテインメントの力を用いるなどのアイデアを駆使し、問題解決に関わる人を増やす活動を行いました。

## 1.

### クリアマスクプロジェクト

口の動きや顔の表情も見ながら相手の言いたいことを読みとるデフにとって、マスクは大きな壁となっています。そこで、導入コストが低く、だれもが気軽に扱え、口元を見せることができる「透明マスク」を配布するプロジェクトを立ち上げました。



#### STORY:01

### 誰が話しているのかさえわからない

マスクをつけるようになってから、友だちとしゃべるのが急に大変になりました。マスクで口元が見えないから、誰が話しているのかさえわからないこともあります。そんな時、会話を遮って「何て言った？」と聞き返すのはすごく勇気がいります。むしろ言えなくて我慢してるときもあります。困っている人の気持ちがわかるので、ぼくたちは周りに気を配ってフォローしてあげるようにしています。

京都市立二条中学校 難聴学級のみなさん



#### STORY:02

### もっと気軽な会話がしたいです

読唇術で相手の言いたいことを予測し会話をするのですが…マスクの普及により口や表情が見えにくくなってしまいました。お買い物の時も「ポイントカードはお持ちですか」「袋は要りますか」「あたためますか」など、聞かれることが多いと今どれを話しているかも分からず不便です。またマスクをしていると、保育園の先生や病院の先生との会話方法が筆談しかありません。筆談だと時間がかかるのが手間で、気軽に会話ができなくなってしまいました。

うさささん

学校や職場、病院など計350箇所に2万枚の透明マスクを配布。

## 2.

### 爆音コンビニ「DEAF MART」

『爆音コンビニ DEAF-MART』は、クラブさながらの大音量でBGMが鳴りひびくコンビニで買い物をおこない、「声が聞こえない」環境下でのコミュニケーションを体験するイベントです。コロナ禍での「マスク」の着用が、口の動きや顔の表情を見ながら相手の言いたいことを読みとるろう難聴者にとって大きな壁となっていました。この問題を広く周知し、解決策と一緒に考えるきっかけとなることを目的に本イベントを企画いたしました。

#### POINT

### ある社会課題の無関心層へ、エンタメ要素を用いて問題提起する

マスク着用のコミュニケーションしづらさは、ろう難聴の世界では常識でした。しかしその世界から一歩外に出ると、なぜ困るのか？を想像できる人は少なく、問題が生じる原因となっていました。問題を知るきっかけとして、「おもしろさ」を活用しました。YouTubeのニュース配信では50万回再生を超えるなど、50件を超えるテレビなど各メディア露出によって問題提起ができました。



※ 専門家による指導のもと、人体への影響を配慮し、店内の爆音度合いを調整して実施しました。



爆音コンビニ開催レポート

YouTubeニュース配信

50万回再生超

メディア露出

50件超

## 3.

### ジェスチャー泥棒ゲーム「MUTERS」

コロナ禍によって「黙食」などといった「声を出さない」ことの重要性が広がり、校歌を手話で歌うなどの視覚的・身体的なコミュニケーションの意義が広がっていきました。ボードゲーム「MUTERS(ミューターズ)」のミュート(声で話さない)というコンセプトは「黙る」という制約にも思える事柄をろう者の視点を用いてゲームにすることで、視覚的・身体的なコミュニケーションの広がり、聞こえる・聞こえないの違いや言語の壁を超えた交流を生み出しました。



Amazon  
MUTERS (ミューターズ)  
ジェスチャー泥棒ゲーム  
(4-6人用 40~60分 6才以上向け)ボードゲーム  
¥5,500



## ルーツ 尾中、原体験を訪ねる。

代表の尾中友哉は、父・浩治さん、母・幸恵さんというろう者の両親の元に生まれました。

共通言語は手話という家族の中で育ち、友哉はサイレントボイスを設立。

今年、両親は長年暮らした大津市を離れて、同じ滋賀県内の高島市に引っ越しました。

そんな二人の元を訪れ、サイレントボイスのルーツとこれからの未来について手話で語りました。

### 聞こえない両親の元に生まれて

#### 友哉が生まれて

友 生まれた時のことで、覚えていることはある？

母 妊娠した時に周りから心配されていたけど、私自身は特に悩んでいなかった。お腹の中にいるときに、犬の鳴き声に反応して動いたので、聞こえる子どもだって分かった。出産した瞬間に目を輝かせてキョロキョロしてたのを覚えている。

父 耳が聞こえる方が将来の選択肢が増えると思っていたので、聞こえる子どもが生まれたことは嬉しかった。私自身、少し家庭環境が複雑だったので、自分は耳が聞こえないということで苦しい経験をしていた。だから、子どもには同じ思いをさせたくなかった。

友 初めての子育ては大変だったんじゃない？

母 近くに住む手話ができる方が遊びに来てくれた時に、友哉が泣いてても気づかなかったのを見て、気をつけないといけないことを教えてくれた。  
**もっと情報が必要だなと思って、手話サークルに通うようになって、赤ちゃんのいる人を見て、何に気をつけないといけないとか、情報交換を心がけていた。**



父 お母さんが昼にお世話をして、その間に私は工場の仕事に行っていたね。家に帰ってきてからは、疲れているお母さんに代わって世話をしていた。泣き声にすぐに気づけるように補聴器をつけたまま寝て、何かあれば起きて、朝になったら仕事に向かうというのを毎日続けていた。どうしても疲れてしまったときは、そのまま寝てしまうこともあった。今、もう一回やってくれて言われたらお手上げ(笑)

#### 初めての発語



友 僕自身、どうやって声を出すようになったかは覚えていなくて、気づいたら話していた。お父さんお母さんも手話で話すので、手話で育ったと思っていたけど、昔のビデオを見たら思っていたよりも話していた。

母 普通の赤ちゃんと同じだったと思うけど、「バイバイ」とか「いただきます」とかを口の動きで伝えるうちに、声も一緒になって出るようになったんだと思う。

友 初めての発語は「食べたい」だったって聞いた。

母 食べ物がほしいときに、友哉が自分の舌を指差して「食べたい」って伝えてきたときは、わーって胸が弾んだ。

父 私は、補聴器のおかげで音が出ているのはわかるから、友哉の口元を見て一生懸命読みとっていた。**友哉も私が聞こえないのに気づいてから、口の動きと身振りで伝えてくれて、ちょっとずつ手話も使いながら徐々にコミュニケーションがスムーズになっていったね。**

#### 小さいお父さん

友 旅行とかのときに、小さいお父さん、小さい通訳だなんて言われていたのを覚えている。

母 旅行先で友哉に通訳をお願いすることが多くて。食事の時に「飲み物何がいいですか？」と言われても聞こえないから、友哉が繋いでくれていた。

友 コーダ(聞こえない・聞こえにくい親を持つ子ども)の会に参加した時、いろんなコーダが居ることを知った。うちの場合は、**両親はできることを一生懸命していて、自分も家族としてできることをする**という感覚が強かった。

父 あんまり子どもに負担をかけたくなかったの、できるだけ自分でコミュニケーションすることは意識していた。ただ、友哉が小学校に入ったときは、親が聞こえないことでいじめられないか心配していた。実際にはクラスの友達と仲よくて、家にも遊びに来ていた。

友 お母さんは友だちに手話の勉強会とかも開いていた。両親が聞こえないことを隠していたら、自分も気にしていたかもしれない。二人ともすごくオープンな態度だったから、僕も友達も自然に受け入れていたんだと思う。



### 尾中家とサイレントボイス

#### 挑戦に障害は関係ない

友 二人はこれからどうしていくの？

父 高島は自分が産まれた故郷みたいな場所。60歳になって、故郷に帰ろうとここを選んだ。広い土地と家があって、旅行が好きでいろいろな所に行ったから、今度は**自分がお客さんが泊まる宿を作りたい!** その辺はお母さんと相談して、経営にチャレンジして、成功させたいと思っている。

母 **コテージを作って、屋はそこで料理教室とかワークショップを開いて、夜はお客さんに料理を振る舞って泊まれるようにしたい!**

友 お母さんは、最初に考えたことをずっと大事にするよね。

母 夢を持って、計画を立てて、目的を目指してやっているから。

友 僕が大学生のときにお母さんがカフェを始めた。おじいちゃんとか、他の親戚は心配してて、僕も正直どうなるかなって思っていた。でも行く度に新しいお客さんが増えて、すごく順調で。僕はお母さんがいない土曜日にアルバイトで入ったり、メニューのデザインをしたりしていた。

母 ヘルシードリンクね。まだ残っているよ笑。お父さんと旅行しながら、全国のカフェを巡ってどんなサービスをしたら嬉しいかを研究してた。パフェとかも食べて、どんどんメニューを増やした。

友 お母さんが、東京で“障害者”の起業について講演をすることがあった。参加者は耳が聞こえないハンデをどう乗り越えたかを聞いたかったと思うんだけど、お母さんは今みたいに美味しいパフェをどう作るかを話していた(笑)

母 みんな「聞こえなくて困ることありますか?」って聞くんだけど、**障害がある・ないは関係ない。同じ人間だから。**

友 お母さんのすごい所は、そうやって考えすぎないというか、精神的に浮き沈みがないイメージ。自分だからこそ何ができるかを考えて、聞こえないから観察して気づいて行動するっていうのが自然にできている。これがサービス業ですごい大事ななと思って、サイレントボイスオリジナルのコミュニケーション研修につながった。

## デフが同じように働ける社会へ

友 お父さんの仕事の話はずっと聞いたことがなかったけど、高校生ぐらいのときに、「刑務所に入っている気持ちだ」って言われた。

父 工場でコンペアーの仕事をしていて、あるときに他の人から呼ばれても気づかれないので、呼ばれる時にネジを投げられるようになった。最初は気にしていなかったけど、毎日されるうちに、ある日胸ぐらを掴んでしまった。みんなになだめられて、あとから謝ってもらったことがある。



友 その話を聞いたときは信じられないくらいショックで。お父さんの気持ちも、それをやった相手の人の気持ちも分かる。でも、その人のやったことははっきり間違いだったと思った。お父さんと30歳離れているうちのメンバーも同じような経験をしていて、それは絶対に変えないといけないと思った。

父 **昔は、聴覚障害者が働ける場所は限られていた**から、辞めたいと思っても他に入るところはなかったね。今はだんだん、ろう者の仕事の選択肢も増えてきたし、大学に行くのも普通になってきたから良くなってきていると思う。聞こえる聞こえない関係なく、聴覚障害者が同じレベルで仕事できるような社会になって欲しい。

友 色々な会社と関わってきて、社会全体が今すぐに考え方を变えるのは難しいってわかってきた。スマホとかパソコンを使った方法が広がってきているから、まずサイレントボイスが活躍できる場所を作るチャレンジをしていこうと思っている。僕自身は聞こえるけど、**聞こえないという世界の体験を二人からもらった**とっていて、サイレントボイスを立ち上げた原点は両親にあるなっている。

## 数字で見る SilentVoice

Silentgraphics





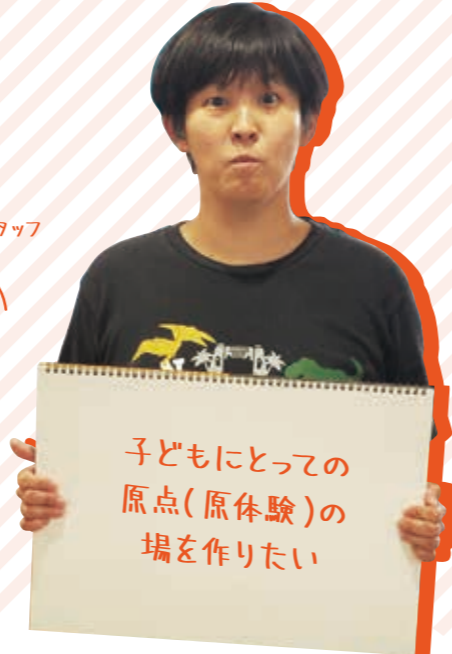
# Next Vision

2014年の活動開始から、2017年にNPO法人化したSilent Voiceも5周年を迎えました。  
現在の活動の各リーダーがそれぞれの想いを語ります。



2022年度から着手している「インパクトストーリー（社会変化のシナリオ）」を元に、より必要なものを事業に取り込んで活動価値を高めていきます！ 僕たちのインパクトストーリーをぜひ聞いてください！一緒に磨いていけると幸いです。

高橋縁  
デフアカデミースタッフ



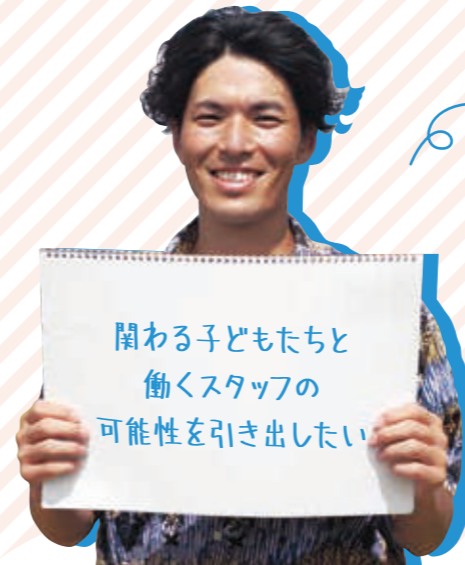
デフアカデミーの活動の中では、視覚的な情報を多く取り入れ、“見て理解する”“対話ができる”環境を作り続けていきたいと思っています。ワクワクを共有しながら、「楽しい」「できた」「もっとやりたい」…そんな言葉が自然と溢れ、共に成長できる場をこの大阪の地で実現していきます。

岡松有香  
デフアカデミー事業責任者



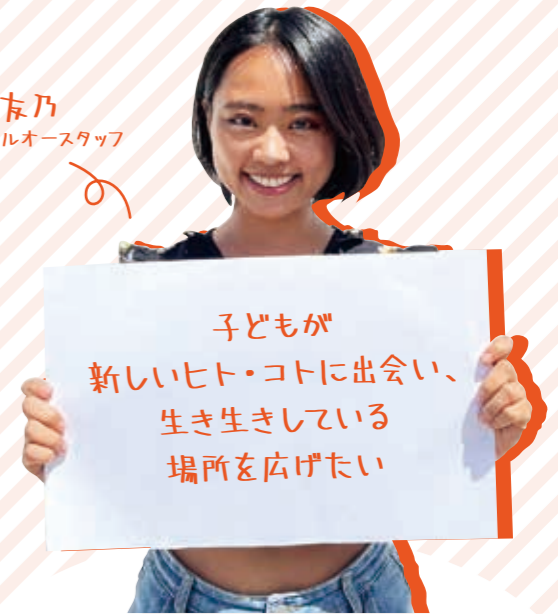
病院勤務時代から培ってきた言語聴覚士としての経験に加え、「手話」という一つの言語を強みとして持っている私だからこそできる、ろう・難聴児への教育の“質”を考えます。“もっと学びたい！”という思いを子ども自身から生み出すにはどうしたらよいか、デフアカデミーやサークルオーでつながる全国のろう・難聴児を支援しながら探っていきたいと思います。

井戸上 勝一  
サークルオー事業責任者



人との出会いが「聞こえないからできない」という思い込みを外し、応援してくれる人の存在が可能性を後押しします。オンラインという新たな世界で、子どもの可能性が溢れる土壌を耕し続けます。また私のチームは、ろう難聴者2名・聴者2名で構成されています。自分を含め誰しも凸凹があると思っているので、凸の部分を掛け算できるチーム作りを心がけています。

日下友乃  
サークルオースタッフ



オンラインだから実現できる出会いや学びがたくさんあります。出会う人やものが同じでも、1人ひとり受け取り方は違う。刺激しあい、人生の選択肢を広げ、自分で選ぶことで、その時の自分に満足を感じる。そんな環境を設計し続け、そしてその環境を社会の隅々まで届けていきます！

宮田翔実  
総務責任者



見てわかることが社内の共通理解の方法であることから、様々な指標を数値化、誰でも見れるようにデータ整理を進めてきました。これらをさらに前進させ、活動の成果の見える化を社内外で実現できるようにします。

## ご寄付いただいた皆さま

SUPPORTERS



## 協働していただいた皆さま

PARTNERS



## メディア掲載・出演実績

MEDIA



TBS『報道特集』



朝日放送『木苺を見つけるまで』



NHK総合『あさいチ』

その他 朝日新聞 / 読売新聞 / 毎日新聞 / 産経新聞 / 日経新聞 / 致知出版社『致知』 など多数

## 2021年度会計報告

REPORT

### 活動計算書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	科目	金額		
I 経常収益	1 受取会費及び入会金	正会員受取会費 30,000		
	2 受取寄付金	受取寄付金 ① 19,685,119		
	3 受取助成金等	受取助成金 ② 12,555,240		
	4 事業収益	事業収益(デファアカデミー)	③ 30,343,752	
		事業収益(その他)	④ 5,817,447	
	5 その他収益	受取利息配当金	23,269	
		雑収益	204,761	
	経常収益計		68,659,588	
	II 経常費用	1 事業費		
		(1) 人件費	役員報酬	3,600,000
給料手当			18,317,332	
賞与			390,660	
法定福利費			2,914,588	
人件費計			25,222,580	
(2) その他経費			通勤費	698,910
			福利厚生費	150,751
			業務委託費	11,874,373
			印刷製本費	3,150
			会議費	484,605
		接待交際費	637,998	
		旅費交通費	1,553,760	
		広告宣伝費	3,648,005	
		通信運搬費	2,341,548	
		消耗品費	2,149,313	
修繕費		330,000		
水道光熱費		261,584		
地代家賃		3,229,517		
賃借料		424,110		
減価償却費		5,447,278		
保険料		173,405		
諸会費		40,900		
租税公課		292,650		
研修費		530,580		
支払手数料		1,575,469		
支払寄付金		72,480		
支払利息		168,147		
雑費		8,610		
新聞図書費		102,353		
支払リース料	109,172			
その他経費計	36,308,667			
事業費計	61,531,247			
2 管理費				
(1) 人件費	役員報酬	900,000		
	給料手当	4,579,333		
	賞与	97,665		
	法定福利費	728,647		
	人件費計	6,305,645		
	(2) その他経費	水道光熱費	65,396	
		地代家賃	807,379	
		賃借料	106,027	
		減価償却費	0	
		旅費交通費	6,140	
支払報酬		3,262,992		
支払利息		2,499		
その他経費計		4,250,434		
管理費計		10,556,079		
経常費用計		⑤ 72,087,326		
税引前当期一般正味財産増減額	△3,427,738			
当期一般正味財産増減額	△3,427,738			
前期繰越一般正味財産額	32,205,420			
次期繰越一般正味財産額	28,777,682			

### ①受取寄付金

法人初の「遺贈寄付」の受け取りや、大阪府「NPO等活動支援によるコロナ禍における社会課題解決事業」の採択を通じて多くの寄付金が集まりました。

### ②受取助成金等

「聴覚障害のある中高生の進学・キャリア支援」事業が休眠預金活用事業に採択され、助成金を受領しました。次年度も継続して事業を進めております。 ※休眠預金等活用法に基づき、休眠預金等を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2020年度より本格始動しております。行政だけでは対応困難な課題に対する民間独自の創造性とイノベーションの発揮が期待されています。

### ③事業収益(デファアカデミー)

緊急事態宣言等により教室事業は昨年度から約500万円減少し苦戦しましたが、臨時的にオンラインの集団授業などに切り替えてサービス提供を維持できました。

### ④事業収益(その他)

クラウドファンディングで406名に581万円のご支援を頂きました。

### ⑤経常費用

コロナ禍で厳しい経営状況でしたが、より良い事業運営やコンテンツ作成のため、必要な人件費および経費の計上を継続いたしました。なお業務委託費についてはオンライン教育事業の予約システム制作費等が計上されております。広告宣伝費については、ファンドレイジングの開始に向けたWEBサイトの更新等が計上されております。

法人初の大型寄付や財団等の助成金など事業収益以外の収入を獲得し、NPOとして社会に支えて頂きながらコロナ禍の活動を継続することができました。ご支援頂いた皆様に心より御礼申し上げます。今後は認定NPO法人取得とファンドレイジング(寄付集め)活動にも注力して、ビジネスで解決できない社会課題に対して思い切って活動をしていこうと考えています。並行して社会的成果や会計の見える化を一層進め、皆様のご厚意を社会に還元する主体として成長していきます。引き続き応援を頂けますと幸いです。

### ご寄付について

個人・法人様からのご寄付は、銀行振込のみで受け付けています。ご寄付に関するお問い合わせは、法人WEBサイトの「お問い合わせ」ページ(下記QR右)よりご連絡ください。

お申し込み

お申し込みフォーム(下記QR左)から、必要事項をご入力の上お送りください。

口座情報をお送り

自動返信にて、振込先の口座情報をお送りいたします。

領収書発行

入金確認後、領収書を発行させていただきます。



◀ お申し込みフォーム



◀ お問い合わせ